



手交代させました。といったも新品を買ったわけではなく、修理して再生させた古サーバーです。でも、調子よく動いています。このさい、労働サイト全文検索(まだ仮称です)を別のサーバー(これは初代サーバーで、いったん引退したのちに修理して復活させたもの。しばらく私が作業用に使っていました)に担当させることにしました。以後、OISR.ORGはサーバー2台態勢で運用しています。OISR.ORGとOISR.NETです。

### ●OISR.ORG全文検索をリメイク

(<http://oisr.org/cgi-bin/namazu.cgi>)

これはOISR.ORGのすべてのページと研究所関連サイトを対象に検索できる全文検索です。Namazuというフリーソフトで構築していますので、通称「小ナマズ」と呼んでいます。Namazuをバージョンアップし、「個別コンテンツ検索」を新設しました。つまり、OISR.ORG全体について検索をかけることができるとともに、特定のコンテンツについてだけ検索をかけることもできるようになりました。現在は限られたものしかありませんが、順次追加する予定です。ご希望のコンテンツがありましたらお知らせください。

### ●労働サイト全文検索を独立

(<http://oisr.net/cgi-bin/namazu.cgi>)

社会・労働関係リンク集に掲載されている日本の労働組合・労働関連団体・研究サイトの全文検索です。通称「大ナマズ」です。労働問題のネットワーク上での動向が一括把握できるようにしたのですが、更新作業にかなりの時間がとられるため、今回のサーバー差し替えのさいに独自サーバー仕立てにしました。更新作業中はかなりサーバーが酷使されるものですから、表示などに影響があったのです。「小ナマズ」とはコンテンツの性質が異なりますので、インターフェイスも別になりました。ただし、これについては正式名称がじつは決まっていません。また、裏での作業手順を自動化するために現在、仕様を見直しているところです。

### ●『大原社会問題研究所五十年史』【電子復刻版】

(<http://oisr.org/50nenshi/>)

大原デジタルライブラリーに当研究所が1970年に発行した『大原社会問題研究所五十年史』(非売品)全文を公開しました。当研究所の歴史を知るには不可欠の文献ですが、なにぶんにも市販されたものでないために稀覯書になっていました。当研究所の仕事の一つに、戦前の大原社研と周辺事情についての問い合わせに応えることがありまして、この本はそのさいの重要な参考書になっていたそうです。訂正すべき点もありますが、ここでは原本に忠実に電子復刻しました。リブロ電子工房が基礎作業を担当しました。

なお、この企画では、オンデマンド出版システムを使って、レビュージャパン社から書籍としても復刻することになっています。現在、作業中です。そろそろ見本ができる時期です。これについては、次回、ご報告できるでしょう。

### ●『日本労働年鑑』22集-25集

(<http://oisr.org/rn/>)

「戦後特集」として再出版を期した1949年から1953年の第25集までの労働年鑑の本文を復刻しました。これはかなり前からリブロ電子工房でOCR作業していただいていたものです。3月に仕上げ作業をおこないまして、一応、完成しました。一冊が700ページから900ページぐらいある大冊を4巻まるまるテキストデータにしました。相当な分量があります。この時期は、終戦後の独特の雰囲気の中で労働運動がおこなわれていた時代ですから、今日では考えもできないような出来事や事件がたんさんあったようです。いわゆる55年体制以前の労働について考察するさいの貴重な資料群です。

### ●戦時年鑑

(<http://oisr.org/rn/>)

『日本労働年鑑』別巻として1960年代中頃に編集刊行されたものです。『太平洋戦争下の労働者状態』と『太平洋戦争下の労働運動』の2巻になっています。戦時中の労働問題についての数少ない研究として評価の高かったもので、通称「戦時年鑑」と呼ばれています。のちに2冊を合本したものがありまして、それを底本にして本文と図表を全文復刻しました。戦時中の労働運動についての原資料に基づいて編集された、精度の高い研究だそうです。

以上、あわせて6冊の年鑑を復刻しました。数えたことはないですが、4000ページはあると思います。通読はまず不可能な分量ですね。ファイルをワンテーマごとに小分けしましたので、全文検索を使用されると効率的に調べることができるでしょう。

### ●戦前期原資料インデックス

(<http://oisr.org/kensaku/genshiryo.html>)

大原所蔵の原資料(不定形資料)の検索カード情報をデータベース化して3月24日に公開しました。ポスター展と同様の手法ですね。これによって、どのような資料群が当研究所に所蔵されているのかが事前に調べられます。また、そうすることで当研究所に閲覧に

来られたときに時間を有効に使っていただけたと思います。このようなデータベースをOISR.ORGでは「インデックス」と呼んで、以後シリーズ化する予定です。

### ●戦前期原資料インデックス(リストアップ版)

(<http://oisr.org/kensaku/genshiryobr.html>)

こちらは上記のインデックスをブラウザしながら検索できるインターフェイスです。こちらですと、まずどのようなものがあるのかが一目でわかります。ラジオボタンをチェックして検索するだけで、そのテーマに関するファイルやフォルダのリストが表示されます。これは4月6日に公開しました。

### ●『大原社会問題研究所雑誌』をPDFで全文公開

(<http://oisr.org/oz/>)

こちらは4月20日公開したばかりの特大企画。当研究所の機関誌である『大原社会問題研究所雑誌』(月刊、定価1000円)の最新号(2001年4月号)からPDFで全文を公開するプロジェクトです。あわせて2000年度発行のバックナンバーの全文も公開しました。

これは2月におこなわれた年に一度の役員総会で二村名誉研究員が提案された企画でして、月刊誌をオンライン・ジャーナル化しようというものです。法政大学出版局から刊行されている有料印刷媒体の方はこれからも継続して刊行されますが、2001年度からは最新号をその刊行にあわせてOISR.ORGでも公開することになりました。

PDFで小分けして公開しますので、ちょうど抜き刷りのようなものとお考えください。

レイアウトもすべて印刷物と同じになっています。

こうなると、有料印刷媒体が売れなくなるのではないかと懸念されるかもしれませんが、こちらの定期購読者にはいろいろ特典が付きましますので、私たちとしてはそれほど心配していません。でも、ちょっとは心配なので、定期購読者特典を強化しました。ご都合のよい方をご利用ください。

なお、作業手順と人手不足のため、雑誌発売日(毎月25日)から数日ないし3週間ぐらいまでの範囲でOISR.ORGでの公開がずれると思います。今回の4月号は次号発売の5日前という、滑り込みセーフでの公開となりました。新学期が始まってしまったので、なかなか手がつかなかったんです。

大原雑誌については、月刊誌でもありますので、OISR.ORGの大きなコンテンツです。それに見合う扱いをしようということで、トップページに独立のコーナーを設けました。ご注目いただけましたら幸いです。

(のむらかずお・研究員・社会学)



### アメリカ便り番外編(その5) - 「旅」の総括(後編:ホテル)

五十嵐 仁

#### 旅と宿

少し間隔が開いて、気の抜けたビールのようになっていました。味は今ひとつかもしれませんが、一応、完結させるということで後編を書きました。今回は、ホテルについてです。

旅に宿は付き物です。旅の半分前後は、宿にいます。どれくらいの料金で、どのような宿に泊まり、どのようなサービスを受けるかによって、旅の印象はガラリと変わってしまいます。

料金の安い宿でサービスが悪くても納得できます。高い宿でよいサービスを受けても、当然だと思えます。安い料金でよいサービスであれば感激し、高い料金でサービスが悪ければ、ガッカリします。

また、泊まる場所がどのような所に位置しているかによって、行動範囲がかなり変わってきます。駅の近くか、街の中心部か、自分が行こうとしている場所の近くか遠くか、という問題も重要でしょう。したがって、事前のホテルの選定は大切です。

このホテル選びの状況と実際の施設やサービスはどうだったのか。今回の私の「ニューイングランド一人旅」で、検証してみましよう。皆さんのこれからの旅の参考にしていただければ幸いです。

#### 私のホテル選び

今回の私のホテル選びは、基本的に旅行社にお願いしました。旅行社は、ボストン・インターナショナル・トラベルという、日系の旅行社です。ここを知ったのは、偶然に過ぎません。こちらでたまたま目にした日本字新聞に宣伝が出ていたからです。

ポイントはまず料金、次に場所です。料金は90~100ドル位。場所はアムトラックの駅の近くか、街の中心部に近いところ。アムトラック駅からも街の中心部からも遠い、たとえば空港の近くのホテルなどは対象外です。

このホテル選びは、旅行社に完全にまかせたわけではありません。最終的には、一緒に探しました。パソコンでホテルの場所や条件を検索するとき、私は横にいて、料金の面で良さそうなホテルについて場所などを質問します。良く分からないとき、担当者はその場から電話して聞いてくれました。これで大体の場所の見当が付きました。

料金の面でも、結果的には予定よりも安くなり、満足のいくものでした。偶然にも、最初のデトロイトのホテルが99ドル、次のクリーブランドのホテルが89ドルで、順にこの値段が繰り返されるという形になりました。以下に、ホテルの名前と電話番号、値段の一覧を掲げておきましょう。

Best Western Detroit Downtown(313-887-7000) \$99 ○  
Residence Inn Cleaveland Downtown(216-443-9043) \$89 ◎  
Hampton Inns Pittsburg(412-681-1000) \$99 ○  
Wyndham City Center Hotel(202-775-0800) \$89  
Best Western Center City Hotel(215-568-8300) \$99  
Comfort Inns Midtown(212-221-2600) \$89 ○

最後の三つは場所が入っていませんが、ワシントン、フィラデルフィア、ニューヨークの順です。Best Westernが二つは入っていますが、全くの偶然で、結果的にそうなっただけです。最後の印は、○印が朝食付き、◎印が朝食だけでなく「夜食」も付いた所です。無印は、宿泊だけです。

### 素晴らしかったクリーブランドのホテル

先に掲げた一覧を見ると、一目でどこが一番良かったかが分かります。値段の割にサービスが良く、部屋もダントツだったのは、クリーブランドのResidence Inn Cleaveland Downtownでした。ここは、季候の良い頃に長期滞在で泊まりたいようなホテルです。このホテルについて、本編のHPで私は次のように書きました。

「この部屋は良い。すごく良い。ここに住んでも良いくらいです。アメリカのホテルを見直しました。今までのホテルで、こんな部屋に泊まったことはありません。我が生涯、最高の部屋だと言っても良いでしょう。

広さは20畳もあるでしょうか。まず、入ったところに、立派な事務机と椅子があり、仕事ができるようになっています。今、この椅子と机でこれを書いています。座り心地は今ひとつです。

その前には4人くらいは座れるコーナー型のソファがあります。ソファの前にテーブルがあり、その上に飴の入ったガラスの入れ物が置かれています。日本の旅館のようなサービスです。

入って直ぐ右には、二人用のテーブルと椅子があります。テーブルの上にはお皿やコップ、コーヒーカップ、ワイングラスにナプキン、ナイフやフォーク、スプーンなどが用意されていて、直ぐにも食事ができるようになっています。塩や胡椒まであります。

そして、その前が何と、キッチンです。大きな冷蔵庫があります。中には、何もありません。これが残念です。でも、製氷器と水入れがあります。

キッチンにはガス台2つにオーブンが付いています。コーヒーメーカーもあって、挽いたコーヒー豆もあります。これは嬉しいですね。煎れたてが飲めます。そして今、その煎れたてを飲んでいます。

暖炉まであります。とは言っても薪ではありません。ガスの火が点いていて、タイマーのスイッチで大きくすることができます。暖房は別に調節できるようになっていて、設定温度と現在の室温が、摂氏と華氏で示されています。

ベッドはキング・サイズ(いわゆるダブルベッド)で、テレビの横には観葉植物の鉢植えが置かれています。窓は二つもあります。クロークも、大きいのと小さいのと二つあります。」

まあ、「すごい」の一言につきます。しかも料金は89ドル。この他、朝には地元の新聞が入り、帰るときにはホテルの車で送ってくれました。朝食も、ここが一番豪華で、かゆい所に手が届くような完璧なサービスでした。

### 他のホテルの寸評

他のホテルは、それほど大きな違いがありません。一カ所だけ、バスタブがなく、シャワーだけというところがありました。ニューヨークのComfort Inns Midtownです。でも、簡単な朝食が付きました。

それに、ニューヨークのブロードウェイの近くで、89ドルですから、一概に「悪い」とはいえないでしょう。100ドル以下で中心部に泊まれたことだけで、良しとしなければならぬかもしれません。

大きな違いはありませんでしたが、細かなところでは、かなりの違いがあります。たとえば、朝食が付いたり、付かなかったりとか……。同じ値段でもこのような違いはありませんし、値段が高いからといって朝食付きだというわけでもありません。この辺はバラバラですので、気になる方は、予約するときに確認した方がよいでしょう。

バラバラといえば、お風呂のお湯の入れ方、つまり湯船の蛇口が全て違っていたのには驚きました。6つのホテルが別々の方式だったわけです。栓を右にひねるもの、左にひねるもの、引くもの、押すもの、上に上げるもの、下に降ろすものでしたか。もう記憶は定かではありませんが、ホテルに着いてお風呂に入るたびに、どうやらお湯が出るのか分からず、悪戦苦闘しました。

おまけに、同じ、「Best Western」の名を冠したホテルでも、デトロイトとフィラデルフィアでは、共通しているのは名前だけで、設備やサービスにはほとんど共通性はありません。メモ用紙やボールペン、洗面所の水道の蛇口まで違います。アメリカの多様性を評価してはいますが、この辺までできずと、私などには理解できなくなります。同じホテル・グループなのであれば、どうして同じにしないのでしょうか。メモ用紙やボールペンなどは共通企画にして大量生産し、各ホテルに配った方がコストが安くなると思うのですが……。

## 「観光立国」の提唱

私は以前、サンクスギビング・デイの休みを使用した「プロビンスタウンへの旅」の経験を下に、[「五十嵐仁のアメリカ便り」11月25日付](#)

で「私的日米比較観光論」を試みました。そこでは、観光地として整備されている点や街路の美しさ、住居の分かりやすさなどをアメリカの良さとして評価しました。今回の私の旅でも、この点は確認できたと思います。

各地には立派な美術館や博物館がありますし、入場料はそれほど高くありません。ワシントンなどは、ほとんど無料でした。フィラデルフィアでは、アメリカ建国に関わる歴史的な建造物がきちんと保存されていました。タクシーの運転手がホテルを知らなくても、住所を書いたカードを渡せば、間違いなく送ってくれました。これらは、アメリカの旅の良さです。

しかし、他方でやはり、前回と同様の不満を感じました。たとえば、自家用車中心に組み立てられているアクセスの不便さ、冷え切った体を十分に温められない小さなバスタブ、いちいちホテルから出て夕食に出かけなければならない不便さ、日本旅館などの超豪華な夕食とは比較にならないつましい食事、部屋に入っても靴を脱いでくつろげないという不満などは、今回の旅でも強く感じた問題点です。

「総合点でいえば、やはり日本の勝ちということになるでしょう。これはつまり、観光地における施設と接客のシステムにおいて、日本の方が優れているということを意味しています」という、先の「私的日米比較観光論」の結論を変更する必要はないように思いました。したがって、次のような私の主張は、今回の「ニューイングランド人旅」でも裏付けられたように思います。

「これまで、日本の『観光資源』として言及されるのは、豊かな四季と自然であり、独特の歴史と文化でした。しかし、それと同様に、いやそれ以上に、観光地における日本的な施設と接客システムもまた、大きな『観光資源』なのではないでしょうか。

日本は、観光におけるハードウェアだけでなく、ソフトウェアにおいても世界の人々を引きつけることのできる『資源』を持っており、『観光立国』を目指すことができるのではないかと、これが、今回のささやかな体験を通じての私の発見でした。

それは、あまりにも『私好みのバイアス』に満ちたものかもしれません。しかし、外国の人にも受けると思いますよ、畳の部屋に温泉や綺麗で美味しい料理は……。」

## 結論

最近の日本旅館やホテルの伝統的な接客システムは、若い人にはあまり好まれずと聞かれています。不況の中で集客に頭を悩ませている旅館の中には、今までのやり方を改める動きもあるようです。

しかし、それによって日本旅館の良さまで失ってしまっては困ります。若い人に媚びる必要はありません。私などのような、中高年者や外国人を相手にすれば良いと思います。きっと、これからの高齢社会、国際化時代の中で、日本の旅館システムの良さを見直す人が増えていくにちがいないと思います。

日本旅館には、「観光立国」を目指して奮闘してもらいたい。アメリカのホテルも、日本の旅館やホテルの接客システムを学んで、もっと宿泊客のくつろげる場になってもらいたい(せめて、部屋にはスリッパをおいて欲しい)。これが、今回の旅の教訓であり、結論です。

\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

【2000年2月6日～4月23日】

新 着 一 覧

\*\*\*\*\*

△▼△▼△ 新着情報 △▼△▼△

\*\*\*\*\*

【社会労働関係リンク集】

<http://oisr.org/links/toc03.html>

---

(新たに追加したサイト)

- ・国労本部(01.4.18追加)
- ・鉄鋼労連(01.2.26追加)
- ・日本介護クラフトユニオン (01.2.26追加)
- ・JR総連(01.2.26追加)
- ・航空連合(01.2.26追加)
- ・全司法中部地区連合会 (01.2.18追加)
- ・全労連・全国一般労働組合愛知地方本部ヒット通商支部 (01.2.18追加)
- ・西多摩公立学校教職員組合 (01.2.18追加)
- ・島根県高等学校教職員組合(01.2.18追加)
- ・養老乃瀧の不当解雇を許すな (01.2.18追加)
- ・ソウル女性ユニオン(01.2.15追加)
- ・彦根労連(01.2.13追加)
- ・NTT労組データ本部 (01.2.13追加)
- ・全港湾(01.2.13追加)
- ・京王電鉄バス部門の分社化問題(01.2.12追加)
- ・ユニオンネット(01.2.12追加)
- ・日本私大教連(01.2.8追加)
- ・全専各協(01.2.8追加)

\*\*\*\*\*

OISR.ORGでは皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。  
更新情報ニュースレター“OISR-Watch”(無料)をご希望の方は  
こちらにお申し込みください。

E-mail: [webmaster@oisr.org](mailto:webmaster@oisr.org)

購読を中止するときはこちらにご連絡ください。

法政大学大原社会問題研究所 (<http://oisr.org>)

編集担当者:鈴木 玲

〒194-0298 東京都町田市相原町4342

TEL 042-783-2307 FAX 042-783-2311

\*\*\*\*\*

[2001年4月23日開始、担当・鈴木玲]

---

OISR-WATCH

---

法政大学大原社会問題研究所 (<http://oisr.org>)

---